令和元年度第１回小諸市総合計画審議会　議事概要

令和元年７月 30 日（火）開催

開催日時　　令和元年 7 月 30 日（火）午後 2 時 00 分から

開催場所　　小諸市役所　第 1 第 2 委員会室

出席委員　　相原良男、片桐喜美江、黒澤正幸、佐藤重、佐藤英人、富岡淳、西村廣一、
古屋昌和、山下千鶴子
以上 9 名

（欠席：荻原勝己、寺島克彦、中村健、中屋和也　以上４名）

１　開会　（進行：企画課長）

２　委嘱書の交付

（市長より委員へ委嘱書の交付）

３　市長あいさつ

（市長）

皆さま、こんにちは。

本日は、お忙しいところ、また、梅雨明けの暑い中、令和元年度第１回総合計画審議会にご出席いただき、誠に感謝申し上げる。また、平素から市政の推進に対して、一方ならぬご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げる。先ほど、ご委嘱申し上げたが、皆様におかれては、公私ともにご多用の中、審議会委員の就任について、ご快諾をいただき、重ねて御礼を申し上げる次第である。初めての方もいるため、改めてご説明を申し上げたいと思うが、当市の総合計画審議会については、かつては総合計画策定審議会という名称で、計画を策定する時のみ設置し、策定が終わると解散しておりましたが、現在は常設型の審議会として、総合計画の策定のみならず、総合計画の進行管理・評価と小諸市の行政経営に関する事項の調査審議を任務としてお願いしている。市の行政経営に関する事項が調査審議の対象ということで、市の政策・施策における重要事項全般が調査審議の対象となるため、総合計画が自治体の最上位計画であることに鑑み、総合計画審議会は大変重要な審議会であると認識している。現在、小諸市では、第 10 次基本計画を着々と進めているところだが、この第 10 次基本計画も今年度が最終年度となる。今後、少子高齢化及び人口減少のため税収が少なくなり、市民の多様なニーズ全てに行政が応えられない中で、市民協働として市民の方々にもお力を賜らなければならない状況となる。また、財源が限られる中で、選択と集中による財政運営をしていかなければならない。そのような状況の中で、第 10 次基本計画の振り返りを行うとともに、第 11 次基本計画を策定していかなければならない。審議会の委員の皆様におかれては、それぞれのお立場でお力添えを賜わるとともに、今後の審議会において、当市の行政経営、さらには地域経営の質の向上に向けた、忌憚のないご意見や真摯なご議論をお願い申し上げ、第１回の審議会にあたってのご挨拶とさせていただきたい。よろしくお願い申し上げる。

４　自己紹介

（委員、市長、事務局自己紹介）

５　審議会の任務

（事務局）

審議会の任務についてご説明申し上げる。条例の第 2 条に記載されているが、「小諸市総合計画の策定に関する事項」、「小諸市総合計画の進行管理及び評価に関する事項」、「小諸市の行政経営に関する事項」となっている。また、国で進めている地方創生に関する地方版総合戦略について、今年度が１次総合戦略の計画最終年度となっており、来年度から２次総合戦略の計画期間となっているため、１次の評価及び２次の策定についてご審議をいただくこととなる。

６　正副会長の選出

会長に西村廣一委員、副会長に佐藤重委員を選出

（会長）

審議会委員は今年で７年目となる。この６年間小諸市政を見させていただき、小諸の良いところや強み、また逆に弱みという所がいくつかあった。ぜひその辺りの研究も活かしながら、新しい見地に立って、小諸行政のために頑張っていきたいと思う。私は、小諸を第３のふるさとだと思っている。縁があって仕事をさせていただいており、今回もこういった形で関わることができて嬉しく思うとともに、新しい気持ちでやっていきたいと思う。市長の話でもあったが、少子高齢化が進んでいき、変化のスピードも速く、今までの経験則では判断できないということが多くなった。アンテナを高く、広く持ち、自分から情報を得て勉強を行い、時代に追いついていくということでないと判断ができなくなっていく。これからも勉強をしていきたいと思っているのでご協力をお願いしたいと思う。

（副会長）

最近、観光局に関わっているが、この辺りは変わったという意見をよく聞くようになった。旧脇本陣も始まり、色々な部分が変わってきたと実感しているが、その一方まだまだ変えることができていいない部分もあると思う。ＮＰＯの活動を行っているが、20 年が経過した。地域の気候風土や、歴史、伝統、文化をみんなで情報を持ち寄って、市民共有の財産にしていこうということでスタートした団体である。なかなか自分たちの思うように活動はできておらず、市民に共有できていないものがまだまだあると思うので、そんな部分をぜひ市政に反映していただいて、市民が誇りを持って住み続けることができる小諸市にしていただけたらと思う。昨日、小諸でもすごい雨が降ったが、最近全国では 1 時間で 100 ミリを超えるような雨が降るところもみられる。雨の場合でも、まずどれぐらいの雨が降ったらどのような状況になってしまうということを知ることが重要である。ＮＰＯの活動もそうであるが、そういった知ることから始め、皆さんと努めていきたいと思うのでよろしくお願いしたい。

７　協議事項

（会長が議長となり、議事を進行）

（１）　総合計画について

（事務局より資料に沿って説明）

（２）基本計画財政目標未達成に対する改善策について

（事務局より資料に沿って説明）

（会長）

意見、質問はどうか。

（委員）

0.940 など利率が高いようであるが、現在はもっと低い利率で借りることが出来るのか。

（事務局）

そのとおり。来年の 3 月には 8520 万円を繰り上げで借金を返す予定である。最近の起債の率であるが、道路や建設関係は 0.25、脇本陣の関係は 0.01 などかなり低い利率となっている。

（委員）

自治体が借りる金利は民間より低い金利となっている。

（委員）

選択と集中など民間と課題は一緒だと思う。聞いている限りでは、臨時職員の方の対応は待ったなしの改革が必要であると考える。財政面の課題により職員の圧縮をするならば、職員環境に弊害が出ないよう、民間で実施しているレベルの働き方改革をやっていかなければならない。

（会長）

職員のことが話に出たが、数を減らしていくという中で、職員の質を上げる努力をしていただきたい。若い方は色々な能力を持って入ってくるが、組織によっては濁ってくるケースがある。職員が輝くよう、職員の質の向上に力を注いでいただきたい。

（事務局）

庁内で働き方改革の検討委員会を立ち上げた。「職員一提案」を実施し、業務の見直しを行った。200 超の提案があり、それを担当部署へ返させていただき、事業の廃止や、事務の効率化の取り組みを行っている状況である。AI など ICT を使った業務の効率化も庁内の若手を集めて検討している。来庁者の手書き申請書を打ち込むのにかなり時間を取られていることもあり、OCR で読み込み業務の効率化はできないか、といったことを検討している。市役所の業務もさまざまであるが、それぞれの業務量、業務体制を見直しており、それらをどのように定数管理に反映していくかといったことを行っている。また、人事の評価も業務内容と関連して、決して目立った所の仕事をする人の評価が高いというわけではなく、公務員としてやるべき仕事の中の評価の仕方を検討している。具体的に制度設計している段階である。職員の意識調査を毎年行っているが、その中の数値を見ると、今回モチベーションの部分はかなり上がってきている。しかし、職場によっては差異があるので、改善が必要であると感じている。職員の研修は、実践的な研修となるよう動いているところである。若い職員が濁ってしまうという話もあったが、最近メンター制度は復活させた。新人職員より少し上の年齢の職員が付いて指導をするといった運用をしており、新人育成にも力を入れている。

（委員）

財政の資料を事前に見させていただき、また説明を聞かせていただき、大変な状況であるという印象である。原因はいくつかあると思うが、緊急性も要するため、仕方ないことだったと思う。3 ページについて、令和 5 年までの間で市債残高は適正な額に近づくということでよろしいか。基金残高については、令和 5 年の時点でも厳しい状況ということでよいか。

（事務局）

現実的にはなかなか目標の基金残高には及ばない。

（委員）

少しでも基金残高が伸びるようにと、改善策の中でいくつかの提案をしているということであると思う。もう少し提案内容を具体的にしていただければと思う。

（会長）

基金を取り崩すより起債でということであったと思うが、令和になってから基金の取り崩しが

増えてくるがやむを得ないのか。
（事務局）
　大型事業の実施に伴い、起債だけではまかなえない部分は、歳出のでこぼこがありますのでその部分の調整として、基金を取り崩して運用していくのはやむを得ないと考えている。
（委員）
　改善策で色々な所の縮減を図っていくわけであるが、それにより小諸市の活動が中断していくようでは困る。そのあたりの見込みや方策はどうか。
（事務局）
　お示ししているのは財政上での目標であり、縮減をしつつも必要な部分には選択と集中を行いながら投資すべきであると考える。盛んに言われている少子高齢化がピークに達する 2040 年を見据えて、公共施設は一回建てると 40 年、50 年と使用していくものであるので、抑えることが出来るものは抑えていかなければならない。今回の改善策は厳しい内容であり足枷になってしまう部分もあるが、健全な財政を維持するために作成させていただいた。
（市長）
　単に健全財政を保つためには何もやらないのが一番であり、福祉など必要経費はやむを得ないが、それ以外の新規事業を全くやらなければ財政的には維持する。しかし、停滞感や本当の意味での市民サービス、もっと言えば 10 年 20 年先を見越した中で今やらなきゃいけないことをやらないまま負のスパイラルに入ってしまうことになる。長期財政見通しを立てつつ、選択と集中を行い、一部民間の皆様に担っていただくもの、行政でやらなければいけないものを決めていく。また、今年やらなければならないのか、数年後がいいのかというのも総合的に加味して動いていかなければならない。小諸市は歴史が長いので、他市と比べて公共施設が古いものが多いため、更新時期が迫ってきている。総合的な見直しを図らなければ財政的に厳しい状況である。そういったところも合わせて、本審議会や市議会でご審議、ご判断をいただきたいと思う。財政の改善策については、年によってはでこぼこになってしまうため、この度さっそくご説明させていただいた。
（会長）
　選択と集中ということで、やめるものはやめて、集中すべきものへは投資するということでお願いしたい。

（３）『第 10 次基本計画』平成 30 年度施策評価について
（総務部長より政策 6、施策 6-1、6-2、6-3、6-4、6-5 について資料に沿って説明）

（会長）
　先ほど議論した財政施策以外の 4 つの施策についてご意見等はあるか。
（委員）
　市民協働について、区長会としては、区と行政の関係を重視するという事で、私どもの地域は現在、市役所の各区担当職員の皆様と深い関係かつ良い関係でやらせていただいている。やはり、地域が良くならなければ、市は元気良くならないと思う。各団体への補助金の圧縮など元気がなくなるような耳の痛い話も出てきているが、考えに考え抜いたという点を区も理解しながら市と

連携していきたい。区の行政も苦しい状態であり、区費を頼りにやっているので、世帯が減っている中で新しいことをやっていくのかを慎重に考え、次の世代に繋げられるように頑張っている。

（会長）

「住みたい 行きたい 帰ってきたいまち 小諸」の中で、地区ごとに将来像を掲げながら活動していることかと思う。地区によって温度差はあると思うが、他と比べて落ち込んでいる地区はこれから頑張っていただきたいと思う。

（委員）

来庁者のサービスについて、駐車場がわかりづらいという話があるが、案内の方がいるので良かった。また、第 2 駐車場の出口がとても出にくいが、出口に立っている方がいるので助かっている。慣れていない人にとっては本当に難しいのではないかと感じる。あと、ここで話すべきものかどうかわからないが、先日、市民の立場で用事があって来庁した際、2 階に行ったら 1 階に行ってくれと言われ、1 階に行ったら 2 階に行ってくれと雑に言われた。私のことを知っている方だったからそういった対応だったのかも知れないが、市民に対してそういった対応は良くないのではと思った。

（事務局）

お詫びしなければならない。たらい回しにあい、ワンストップでなかなか対応しきれなかったという点については反省をさせていただきたい。職員が 2 階から 1 階に一緒に下りるなど、次のご案内まで付き添うといった対応もあるかと思うので、接遇の研修を行い、窓口の中での連携を改めて確認させていただき、職員が来庁者のことをお客様であるという意識を強く持ち、来庁者に対しての丁寧な対応をさらに強化していきたい。

（委員）

協働のまちづくりの推進について、私は浅間山をジオパークにしようという活動を行っている。昨年の 12 月には市議会で、小諸市でももっと関わって活動していただきたいという請願を採択していただいた。その後だが、こちらの方からどうなっているかと聞いた際、窓口が決まったという話を受けた。市議会で採択されたあとどのように展開されていくのかということは私や市民の方にはまったく来ないという事である。私個人にというよりは、市民に広く周知されることだと思うが、それが残念ながらなかった。小諸市にはいろいろなＮＰＯ活動をしている方がいるが、民間活動など色々な活動をしている方の情報の集積が市のどこかでなされれば、そういう所へ行くことでこういう団体がこういった活動をしているということを知ることが出来る。例えば私も浅間山をジオパークにしようという取り組みも、個人的にやっているため非常に情報の範囲が狭い。そういうことを広められるような担当の方がいれば良いと感じる。記載のある小諸キャンパス構想というのも内容が不明確であり、市民活動団体への支援についてなどと合わせて、担当の方がいたらありがたい。大学というわけではなく、小諸市全体が学びの場であると考えられるわけなので、そういうことであれば小諸キャンパス構想と市民活動はマッチするのではないか。

（事務局）

ジオパークは浅間南麓全体で取り組んでいかなければならず、小諸市単独では効果がないと思われる。北麓の方ではまとまっているが、南麓だと軽井沢町・御代田町・小諸市・東御市と関係自治体が多い。小諸市としてはジオパークについて、どういったゴールや成果を求めていくかということが重要であるが、何よりも他の自治体と連携していかなければいけないので、そのあた

りの調整が重要になってくると考える。今のところご報告できるような成果になっていないという状況である。また、古屋委員とも相談しながら進めていければと考えているのでよろしくお願いしたい。また、市民活動について、情報をなるべく集めるように努力はしているが、不足している部分はあると思う。市民活動とキャンパス構想を一緒にやっていくという意見も良い意見であると思う。小諸キャンパス構想は、小諸市には大学キャンパスはないため、キャンパス構想の前にキャンパスを持たないという言葉が付く。大学がなくても前向きで上昇志向のある若者を外から呼んで、小諸市の発展に繋げていこうというものである。現在、いくつかの大学と協定を結んで、連携事業を実施している。

（市長）

小諸キャンパス構想について話したいと思うが、小諸市には大学がない中で、政策・施策として直近の話でいえば、コンパクトシティであったりや、上水道の民間委託や歴史と文化がある街であり、この街はここに住んでいる人が思っている以上に外から見ると魅力的であり、勉強するにしてもお宝がいっぱいある街である。さきほど事務局から、外から呼んでという言い方をしたが、私は向こうから押しかけてという感覚である。今やっている中では、長野大学との 3DCG の授業があったりや、慶応義塾大学のゼミが数年前からフィールドワークで入っており、今年は 3 回目になるが、小諸を舞台として短編映画を首都圏 5 つの大学が作成する小諸映画祭を開催している。明治学院大学も島崎藤村をきっかけに農業などでも来ていただいている。最近でいえば、中央大学 2 つのゼミが水道の関係とまちづくりの関係でフィールドワークに入る。また、日本写真芸術専門学校という学校が渋谷にあるが、写真とデザインの学校であり、小諸に入ってきている。小諸市をフィールドワークで勉強してもらうだけではなく、そこで市民と交流していただく中で、新たな小諸の発展、化学反応を起こしてもらう。大学はないが、あたかも大学があるような外からの刺激を受けようというものが小諸キャンパス構想である。先日、東海大学も高地トレーニングの関係で来たが、今後の発展が見込めるところである。大学がない自治体はお金を出してでも来てもらいたいというのが実態であると思うが、小諸市はそういったお宝があるのでうまく交流をしていければと思う。市民協働について、理想論にはなってしまうが、先ほどの地域のお宝は第 5 次基本構想を作る時に各地域で揉んでいただいた。昨年度から小諸ふるさと遺産が始まり、3 年間で 100 のお宝をまとめようということであるが、小諸市民でもそういうお宝があることを意外と知らない。自治体の発展が近代的な発展にばかり目がいってしまい、小諸市が自信を喪失しているということがある。しかし、地域のお宝も含め、小諸市は大変ポテンシャルを持っており、私もできる限りコミュニティテレビなどを通して皆さんにお伝えするようにしている。自分たちが昔から住んでいる、または越してきた方たちに小諸の魅力を感じてもらうことが重要である。魅力を感じてもらった中で自分たちの住んでいる小諸を好きになってもらう。自分が持っている能力を愛すべき小諸の中で使ってもらえないか、何かしようという活動に繋げていただきたい。浸透させていくのは時間がかかるかと思うし、行政に関心がない方々の視線を集めるように、あらゆる手段を通じて努力している。シティプロモーションなど、小諸市のニュースになるものをマスコミに提供することによって、新聞やテレビなど色々な所で取り上げていただき、市民の皆様に関心を持っていただきたいと考える。職員一人一人が小諸の良いところを語ることができるように精進してまいりたい。

（会長）

ＰＲ活動はたくさん行っているが、もっと行っても良いと思う。情報をオープンにすれば他の方が動いてくれるはずである。

（副会長）

シティプロモーションという言葉が出たが、小諸の市政を経営するところで言えば、経営資源はなんだと言うと、小諸の気候風土であり、伝統であり、歴史である思う。こもろ観光局の取り組みと協働すべきである。経営資源を観光局は外に発信する役割であると思うが、市民の言葉で外に語りかけることが出来れば良い。一番のプロモーターは市民である。市民一人一人が自然に自分の言葉で語ることができるように、歴史などを知ってもらわなければならないと思う。もっと連携して色々なことができないかと考えている。粂屋をいかに宣伝していくかという中で、歴史はプロモーションしていく価値があると思う。また、その情報を調べる所から始まるわけであるが、博物館は廃館となってしまった。ハードがなくなってもソフトは続けていっていただきたい。そこが観光局の拠り所となって発信していくこととなる。縮減という中で、その予算は削られてしまうのかと思ってしまう。市民にまず知ってもらい、一緒に学ぼうという小諸市全体がキャンパスであるという取り組みが進めば良いと思う。

（委員）

交通の便という点で、小海線としなの鉄道が通っているわけだが、軽井沢町で働いている方が小諸市にアパートを借りて住んでいるという話を聞く。そのあたりも加味して、駅前の新しい構想を練っていただきたい。

（会長）

良い案もたくさん出たので、是非反映していただきたい。

（委員）

古文書教室から、現在の建物をもっと有効活用していただきたいという話が出ているのでよろしくお願いしたい。

（会長）

他にないので以上とする。

（４）その他

（特になし）

８　閉会

午後 4 時 20 分終了